



決めるだけの本
謝罪アクメ
バー上が寝取られて

R18
For ADULT's Only

RUBBISH Selecting Squad's
EROTICA Extra
Fate/Grand Order FanBook

突然だが
パニ上は敗北した

愛する
マスターの為に
QPや素材を
稼ぐため

金持ち
下衆マスターと
行ったギャンブル
勝負に

その代償は
パニ上自身の身体

悔しさと恥辱に
顔を歪めるパニ上

だが彼女の
マスターはまだ
諦めていなかった

負け分は
QPと素材で
返済するッ

そして必ず君を
取り戻すッ

だからそれまで
待っていてくれ
アルトリアッ

決意漲るその顔に
パニ上も覚悟を
決める

この先
どんな辱めが
あろうと
耐えて見せる

そして
彼の迎えを
待ち続けると

だがその肉体は
あっけなく陥落

いっ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡



屈辱に顔を
歪めながらも

失禁アクメを
決めるまでに
かかったのは
僅か半日

それほどまでに
下衆マスからの
快樂調教は
凄まじいものだった



だが
まだ心までは
折れてはいない

必死に快樂に抗い
朦朧とする
意識の中

パニ上は
この数時間に
自身に刻まれた
行いを振り返る

始まりは
静かなものだった

軽く肌に
触れる程度から

少し柔肉を
歪める程度
の愛撫

力づくの凌辱を
覚悟していた
パニ上には
予想外であり

クニ...

クニ...

さめさめ...

ストリー...

もみもみ...

沸き立つ
羞恥心と嫌悪感
は想像以上の
ものだった

だが彼女の背筋を
震わせるのは
それらだけでは
ない

ぬとさぶ...

んんん

指と舌
それぞれの
刺激が

ズンズン

ぶっ

んんん



確実に快感として
パニ上の身体に
刻まれていく

そんな
はずない...

こんな
男からの
行為に...

...私が...



必死に否定
しようとするもの

食いしばった
口元からは
少しずつ
甘い吐息が
漏れ出していた

あーん

ちんぽ

ふうむ残念

元のマスターとは
経験済みだったか

一通り身体を
堪能された
パニ上は

自ら秘所を
晒すよう
強要されたあげく

マスターとの
関係を容易く
見透かされて
しまう

くは...あ

とはいえ

あ!?

まだ新品同様
肉厚ながら
綺麗な形と色を
していて...

旨そうな
女陰だわい

くは...あ
は...あ
は...あ

は...あ



なん…だッ?

私の…
あそこが…ッ

吸われて
…いる…ッ?

マスターと
経験済みの
パニ上

当然クンニも
初めてという
わけではない

だが—



彼との時と…
違う…

何か…
別の生き物が
蠢いて

食いつくされ
そうな…

きもち…わるい…



気持ち
悪い…のに…

身体の芯に
響く刺激と
嫌悪感との
板挟みに

パニ上は
思わず情けない声を
あげてしまう

はあ

はっ

下衆マスからの
しつこいまでの愛撫に

全身を震わせる
パニ上

んんんんん

んんんんん

おあ

んんんんん

んんん

恥辱と快感で
意識が揺れる
彼女の目の前に

下衆マスの
逸物が示される

ま……待……て

少し……休憩を……

何とか時間を
稼ごうとする
パニ上だが――

んんんんん



すっかりほぐれ
濡れそぼった
秘所を

下衆マスは
容赦なく抉り抜く

あまアッ

んんん

ま

身体の芯を
容易く貫き
蹂躪する

その一突きは
彼女の奥深く

あ

ま

あ

…なん…だ？

動かないのか？

荒々しい挿入に反し
下衆マスの動きは鈍い

訝しむパニ上を見透かすように
下衆マスは語る

お前の本来の胎内の感覚を
味わいたくてねえ

私のモノに馴染んだあとでは
すっかり緩んで
手遅れになってしまう

な……ッ

抵抗の声を
上げようとする
パニ上だが

さてこちらも
味わわせて
もらおうか

不快感と怒りと恥辱で
頭の中が埋め尽くされる
バニ上

身体の奥から
広がる
小刻みな刺激が

徐々に感情を
すり潰し始めた事に
気付く

直感が意識に
警報を響かせるが

同時に何か
手遅れである事も
伝えていた



強急…にッ

ダメ…
これ…は

下衆マスの
複雑な腰使いは
パニ上の快感を
一気に押し上げ

そして



なん…だッ!?

動き…が

まるで奥を…
舐られる
よう…なッ



あり得ない…
こんな男から…

とにかく…
耐えない…と…ッ

なんとか
胎内からの快感を
堪えようとするが

トドメとばかりの
下衆マスからの
射精に

パニ上は
アクメを
決めてしまう

無様に潮を
吹き上げながら



それから数時間

休みなく
繰り広げられる
下衆マスからの
責めに
パニ上は
悶え続ける

そんな...
また...来る...

絶頂が...

あま...
あま...

果ての無い
快楽の波に
パニ上はただただ
翻弄され続け

どんどん...
感覚が短く
...なって

いや...
また...た...ッ

嘘だ...

こんな
...簡単に...

下衆マスの動きが止まったのは、日も登り始めた頃

がくがく

ふう…さすがに疲れたもう打ち止めた

びんびん

ま…

ま…

びん

それにしても…

びん

ま…

すでにバニ上の意識はない

だがその身体はこれまでの余韻だけで絶頂に震え

秘所からは下衆マスの精液だけでなく愛液が小刻みに溢れている

それを見ていた下衆マスはニヤリと笑みを浮かべると

びんびん

ま…

再び己の肉棒を
怒張させ
パニ上を責め立てる

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

こうもいやらしい
身体を前にしては
空にしたそばから
ザーメンが
こみ上げてくる

もうしばらく
遊んであげよう
じゃないか

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

もはや動物じみた
嬌声をあげるしかない
パニ上

騎士王であり
裁定者としての
霊基をもつ英霊は

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

おはっ♡

たった一日で
その身をメス畜生へと
堕とされてしまった

おはっ♡

おはっ♡

調教初日から
容易く
メスの喜びを
その身に
刻まれてしまった
パニ上だが

その魂は
未だ健在だ

例え
怒りと嫌悪の
対象である
下衆マスから

ムニ
ムニ

ムニ
ムニ

どうした？
まだ軽く胸先を
弄んでいるだけ
なのだが？

まさかコレで
イクはずも
なかるうな？

あ当たり前
……だ……ッ

こん……な
……事……ッ

あくうツ!!

愛撫だけで
一日中

イカされ続けて
しまっても

ツあっ♡

ムニ
ムニ

ムニ
ムニ

ムニ
ムニ

ムニ
ムニ

憎悪の象徴ともいえる
下衆マスの肉棒を
啜えているだけで
発情し

随分と熱心にて
しゃぶりついて
くれるな

そんなに私のモノが
気に入ったかね？

戯言を続ける
にやら……

はみ切って……
ひゃ……る……

ぎゅぽ

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

ぐん

ブルブル

んん

んん

ふぎ……
けるにや……

ふふふ
そのだらしなく
緩んだ口で
何をどうするん？

命じられたとはいえ
自ら慰めながら
イってしまったら
としても

口内に溜めた
ザーメンの味と匂いで
甘いキシ

そうだ
しっかり溜めて
味わい噛みしめ

飲み込め

カク

カク

ん

ん

ん

ん

ん

ん

嚥下と同時に
アクメを決めて
しまったとしても



自ら腰を振るような命じられるも

どうした？
動かないと
いつまでも
このままだぞ？

まさかもうイってる
なんて事はあるまい？
ん？

だ黙……れ



今……動く……から……

だか……ら

あ……

容易く
アクメを決めて

小刻みに
身体を揺らすのが
精一杯だったとしても

あぁあぁあぁ

んう……

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

どれほど
無様な声と
痴態を晒しても

パニ上の心は
折れる事無く



真摯に
マスターとの
再会を
待ち続けていた

そして――





その願いは
叶えられる

あ……っ？♡

え……♡



マス……タ……？

最悪の形で



なん…れ…♡

どう…ひて…
マス…ターがッ♡

君を
取り戻す為さ

今のままで
借金返済は
おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない



そこでこの調教に
立ち会ってもらおう
代わりに

借金の何割かを
免除してやろうと
もちかけたのさ

おぼつかない

ひやめろ♡

動くなッ♡

動かないれッ♡

もちろん
簡単に納得は
してくれなかったが



他に手は
ないからねえ

おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない

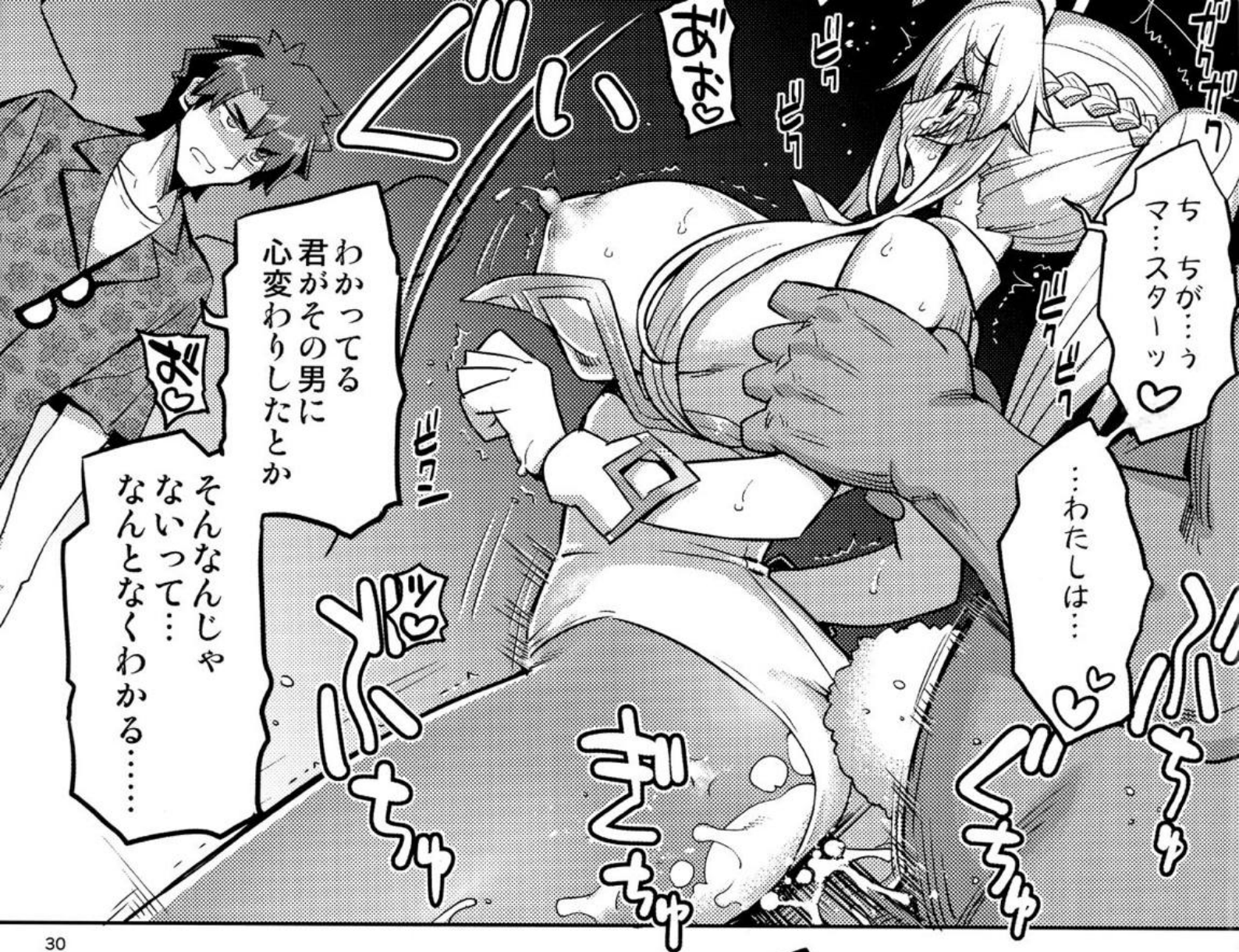
おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない

おぼつかない





わかってる
君がその男に
心変わりしたとか

ちが...う
マ...スターツ

...わたしは...

そんなんじや
ないって...
なんとなくわかる...



気持ち
...いいんだろ？



どうしようもなく
そいつとの
セックスが...



ただ

ママ...
ママ...
ママ...

……俺なんかより

ららめだ
マスター♡

だか……ら
いいんだ
アルトリア……

お願い♡
あなたから♡

俺じゃ……
君をそんな風に
出来ない……♡

わらひ……♡
本当に♡

あ♡

びん

あ♡
か♡
か♡

そんな事
言われたら
わらひ♡

俺に……
遠慮しなくて良い

彼の方が
君の身体を
満足させられる

言わないで♡

だから……

あ♡

あ♡
か♡
か♡

わら……ひは♡



その後も
バナ上は
うわごとのように
謝罪を繰り返す

想い人を裏切り
快楽に溺れる事への
せめてもの
贖罪として



未だバナ上の心は
マスターへと
向けられているのだ

だがやがて
あまりの快樂の波に
意識も罪悪感も薄れ

ただ漫然と
その言葉を
口にするバニ上

そんなものは
もう謝罪でも
なんでもない

メス畜生の
喘ぎ声と
変わりはない

それを痛感し
歯噛みする
マスターを
しり目に

バニ上は
この先も
延々と

言葉だけの
謝罪アクメを
キメ続ける
のだった

■その後、パニ上はさらなる調教に身悶える姿を、
何度もマスターの目にさらす事となる。

アナル拡張や大量浣腸、異物挿入に排出プレイ。
時にはルルハワの屋外で痴態をさらし、
時には猥褻動画の配信プレイを島中に垂れ流し、
複数の男達に三日三晩犯され続ける事もあった。

英霊として、人としての尊厳を奪われ、
無様にメス声を上げ続けるだけのパニ上。
そしてそれを見守り続けるマスター。

そんな下衆マスのおもちゃとなる日々が3ヵ月ほどが経つ頃、
借金の返済が完了する。

かつての面影を無くし快樂を貪る獣となり果てたパニ上だったが、
それでもマスターは彼女を受け入れ下衆マスの元を去る。

マスターの献身的な介護のおかげか、徐々に心を取り戻していくパニ上。
それでも身体に刻まれた快樂の爪痕は大きく、
マスターとの夜の営みで誤魔化そうとするも、とても満足できるものではない。

マスターとの事後、自身で慰めようとするパニ上だが、
もどかしさが募るばかりで、かつての快感には程遠い。
己の浅ましさと欲深さ、マスターへの罪悪感で肩を震わせるパニ上。

そしてそんな彼女の様子に気付いたマスターは
ひとつの決断をする……。

みたいな展開をこの先考えてたんですけど、
終わりが見えないのでギブアップッ。
この話はここでおしまい、終了です。

まあ時間が有り余って気が向く時が来たら
Pixivとか自サイトとかで、公開……みたいなことが
できたらいいなとか思ったり思わなかったり……。

すみません、ご容赦くださいませ……。

あとがき

ここまでのおつきあい、ありがとうございます。
無望菜志です。

久しぶりの同人誌となりますが、如何だったでしょうか。
制作に時間かかってた割にあれこれ行き当たりばったりで
気になる点も多いのですが、ともあれバニ上で一冊描けた事は満足です。

次はバイク王かえっちゃんかモルガン陸下かキャストリアか、
はたまた士剣でイチャラブ系にするかと悩んでますが、
とりあえずオリジナルのポテ腹ロリっ子本を
ちゃんと終わらせようと思ってます。

ただ、ちょっと冬コミが参加自体厳しそうなので、
恐らく次の春頃になるかもしれませんが……。
随分お待たせしてますが、もう少しお待ち頂ければ幸いです。

さて、相変わらず世の中面倒な事が続いておりますが
出来る範囲の事を粛々とこなしつつ、
自分の趣味に走りながらも皆さまに楽しんで頂けるものを
作っていかうと思ひます。

皆様も何卒、健康と心を大事になさってくださいませ。

それではまた。

2022年8月某日 水着えっちゃんを待ちながら 無望菜志

■RE-EX バニ上が寝取られて
謝罪アクメ決めるだけの本■

発行

RUBBISH選別隊

発行日

2022年08月14日

2022年08月27日(第二版)

印刷

(株)PICO

連絡先

namonashi8282@gmail.com

HP

<http://rubbish-ss.net/>

REEX
R-18 FOR
ADULT
ONLY

RUBBISH 選別隊